右及申（通）報候也

別記(1)

此の横取と詐取を見よ！
成金竹内回漕店の正体！

自家汽船船夫に対し暴虐を逞しくし大いに世の攻撃を受けし竹内回漕店の主人は甚しく奸智なる人物で其の悪辣を暴露して去つたのは正しく市民の詐へる以来の方も船が竹内の主人は大いに手腕を振ひ船夫をしてなる人だ。そして十余年前某大人共同経営でマン幸汽船部が[illegible]自分の懐中に収めて竹内は益々他の二人から見放され此の共同経営は破れて了つた其の時竹内にとりては[illegible]霊火に[illegible]此の霊災でドサクサ給料を[illegible]次の機会に内容を発表する。兎も角もドサクサの給料は彼が巨大を儲けした事は事実である[illegible]「今の船夫である」竹内は今日持船八艘を数へる資産家となつてゐるが人によりては彼の財産を「霊稼」と書いて一種の美しい額が揚げられてあると言ふので意味の彼でも好い、多くの者に種々の貢を以て生死境に接しまされた霊災は彼竹内にとりては「霊稼ぎの神である」と言ふ意を表はして「霊福」の額をかけてあると云ふ。此の一事でも判る。霊稼に彼の霊災下不当な火事泥的利益を獲得しないとは思はれないであらう。又船長や船夫二三の助言にゴマカス事は何とも思はない給金を退へきちいこともあるがちやんと心得てゐる。築港方面の船大工に聞いてみるがいい、如何に彼が大きなゴマカシ勘定をつき倒す事の常習者であるかは判かれる。又船の道具等は何所からして買入れ様とはしないで此の船からカッパラつて来る。船夫が「旦那ロープが切れました」と請求すると「何処からかうまくやつて来い、皆が船積してゐる時はそんなもの買へるか」と言ふさうで[illegible]竹内がそんな手風から彼の一艘で[illegible]ある。去年同甚し不名誉な[illegible]今年三月頃竹内の船が[illegible]行つたことがあるがそのとき某船のロープが甲板から船の中に二本も降ろして来るまで船夫が不思議に思つて見てると[illegible]らう」と言つて諦めてゐた。船夫は煙に巻かれて[illegible]

詳細

又竹内が船夫の勘定をごまかしてゐる事は次の機会に[illegible]倒して[illegible]ゐる事も有名である。彼の霊火[illegible]